

MARTIN JACQUES

British journalist and the author of “When China Rules the World: The End of the Western World and the Birth of a New Global Order”

LONDON
SPEAKER
BUREAU



Martin Jacquesはイギリスのジャーナリストであり、「中国が世界を支配するとき - 西洋世界の終焉と新しい世界的秩序の誕生」の作者です。

マーティンは、ロンドンスクールオブエコノミクス(LSE)の客員上級研究員、国際問題、外交および大戦略の研究のためのセンター、およびLSEのアジア研究センターの客員研究員です。

名古屋の愛知大学国際中華研究センター客員教授、後に京都の立命館大学客員教授。2005 - 6年には北京の人民大学の客員教授、2006年にはシンガポール国立大学のアジア研究所の客員研究員を務めました。

Topics

- Economics
- Finance
- Government
- Politics

彼は「Marxism Today」の編集者であり、彼は14年間にわたり、曖昧で退屈なジャーナルをイギリスで最も影響力のある政治出版物に変換しました。現代の最高の政治分析1991年、彼は「Marxism Today」を締め切り、1994年に1996年までの「Independent」新聞の副編集長となりました。彼は「The Guardian」と「New Statesman」のコラムニストです。

彼は、有名なシンクタンクデモを共同設立しました。そのアイデアは、「Marxism Today」の後期に初めて生まれ、1990年代に影響力を持つようになりました。彼の最も影響力のあるエッセイには、「政治の終わり」、「東アジアの台頭」、「中産階級の不安定さの意味」、「スポーツの時代」、および「世界的な人種の階層」があります。

彼はBBCのために多くのテレビ番組を作成し、「試用中のイタリア」(1993)、「信じられないほど縮小する政治家」(1993)、「西部世界の終わり」(1996)に関する2部構成のシリーズを発表しました。「中国人であることを誇りに思う」(1998年)。

彼は妻を記念して設立されたHarinder Veriah Trustの会長で、マレーシアのPetaling JayaにあるHarinderの古い学校Assunta Primaryで恵まれない子供たちに彼らの教育を支援するための財政支援を行っています。